

第10号

令和3年7月13日

発行 / 静岡大学農学部同窓会

〒422-8529 静岡市駿河区大谷836
TEL (054) 238-4880
FAX (054) 237-9362

印刷 / 株式会社 サラト
〒670-0948 兵庫県姫路市北条宮の町172
TEL (079) 284-1380 ・ FAX (079) 224-7746

静岡大学農学部 同窓会報 露無慎二書



北村 陽 (令和2年度農学専攻共生バイオサイエンスコース修了生) 撮影 (御殿場アウトレットから)

COVID-19 惨状は科学軽視への警鐘？



静岡大学名誉教授
元副学長
1967年農学科卒業
露無 慎二

新型コロナウイルス感染症COVID-19が猛烈な勢いで感染を広げ、世界中がパンニック状態に陥っている。静岡大学でもこの波が押し寄せ教育・研究活動に大きな支障をきたし、建学以来最大の危機にある。

COVID-19の病原は伝染力、感染力とも強力な新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)である。

ウイルスは核酸とタンパク質からなる准生物であり、特定の生物(宿主)細胞内の代謝系を使つてのみ活動できる。このため、宿主を痛めずウイルスのみを抑える薬(抗ウイルス剤)の開発は頗る難しい。COVID-19の場合も治療効果が立証された安全な薬剤はなく、現状では免疫的手法に頼らざるを得ない。即ち、免疫原性と発病を担うタンパク質を標的とし、前者を維持しつつ後者を欠くウイルスや当該タンパク質(あるいはmRNA)をワクチンとして使用する。いくつかのワクチンが開発されているが、いずれもアナフィラキシー、血栓などの深刻なデメリットをひき起こす。これらの難題には目を瞑って、世界各国で国民全員接種を目指して進められており、既に感

染縮小になりつつある国もある。

日本ではワクチンの開発が遅れ、世界各国からの輸入に頼らざるを得ないため、接種率は著しく低い。また、本ウイルス群は一本鎖RNAのため、変異率が異常に高く、強病原性変異株が世界中に広がり、新たな感染の波を引き起している。早晩ワクチンが効かない変異株も出てくるであろうから、ワクチンだけで一件落着とはならない。政府は経済への大きな犠牲を払いつつ国民の社会活動を制限して伝染を抑えるというナイーブな策しか出せないでいる。

こうしたCOVID-19の惨状は、科学の進展のための人類の努力不足に警鐘を与えていると捉えるべきであろう。昨今、日本の最高学府は地道に積み上げる基礎科学を軽視し、すぐにでも役に立つ技術に重きを置くようになってきている。本学では、この流れに盲従する大学再編成案が十分な討議もされずに出されたほどである。今こそ科学の進歩を教学する真の大学の使命を果たすよう軌道修正の啓示を受けているのではないかと教職員諸氏におかれては、この危機に打ち勝つことを切に願う。退職後久しい私が静大発ベンチャーを通じてヒトに優しい抗ウイルス剤と新しい放射能除染法を世に出すに至ったのは、在職中、学生諸君と共に基礎科学的アプローチを積み上げ